

H.29
(2017年)

九月（今月の掲示板）

しんしゅうおおたには
真宗大谷派・願成寺

『なぜ生きるのか？』から始まる『新たな人生』

苦悩する時、『なぜ生まれ・生きるのか？』と考えたりします。今の競争社会では、人と比べ・上手く生き・1番になるのが目標で、自分より上の者に詔い、見下す者に傲慢になります。『分別』とは比べる心で、分別が苦悩やストレスを作るので、分別を超えて『無分別智（慧）』を持つのが覚りの基本』と。また、『我執』とは自分の思い通りにしたい・自分の体も命も『私個人のもの』と決めつけて生きることで、『我執を捨てよ』と仏教は説きます。親鸞聖人は『人間は全て我執を持ち・仏教や真理を理解せず・煩惱（欲望）に塗れた凡夫』と説かれました。米は日光・雨水・空気（酸素）・肥料などを宇宙・大地から無理量（量り知れないほど多量）に貰い育ちます。同じく人間も宇宙・大地から『無量の寿』を先祖代々・頂いて来ました。その寿の願い（本願）は『苦勞でも寿命の限り生きたい』で、本願の名が『阿弥陀』無量寿』なのです。人と比べなくても良い人生には、余裕と意欲が生まれます。

主な参考資料

- (1) 小川一乗(著)『親鸞が出来た釈尊－浄土思想の正意－』、東本願寺出版、p. 30～44(2017年)。
- (2) 吉田健一(著)『そつと後押し・きょうの説法』、幻冬舎、p. 80～81(2011年)。
- (3) 土屋昭之(著)『花すみれ・2017年8月号』、真宗大谷派・婦人会、p. 2～7(平成29年)。
- (4) 高橋法信(著)『花すみれ・2017年8月号』、真宗大谷派・婦人会、p. 24～27(平成29年)。